５歳児

育ちあい　より頼もしく

１　発達の特徴

・基本的な生活習慣が身に付き、運動機能がますます高まり、喜んで運動遊びをしたり、仲間とともに活発に遊んだりする。
・言葉によって共通のイメージをもって遊び、目的に向かって集団で行動することが増える。遊びを発展させ、楽しむために、自分たちで決まりを作ったりするようになる。
・自分なりに考えて判断したり、批判したりする力が生まれ、けんかを自分たちで解決しようとするなど、互いに相手を許したり、異なる思いや考えを認めたりといった社会生活に必要な基本的な力を身に付けていく。
・他人の役に立つことを嬉しく感じ、仲間の一人としての自覚が生まれる。

【基本的生活習慣の確立】

起床から就寝にいたるまで、生活に必要な行動のほとんどを一人でできるようになります。

大人に指示されなくとも一日の生活の流れを見通しながら次にとるべき行動が分かり、手洗い、食事、排泄、着替えなどを進んで行おうとします。また、共有物を大切にしたり、片付けをしたりするなど、自分で生活の場を整え、その必要性を理解するようになります。

自分のことだけでなく、人の役に立つことが嬉しく誇らしく感じられ、進んで大人の手伝いをしたり、年下の子どもの世話をしたりするようになります。

【運動能力の高まり】

運動機能がますます高まり、大人が行う動きのほとんどができるようになります。縄跳びやボール遊びなど、体全体を協応させた複雑な運動ができるようになるとともに、心肺機能が高まり、鬼ごっこなど集団遊びなどで活発に体を動かしたり、自ら挑戦したりする姿が多く見られるようになります。

手先の器用さが増し、小さなものをつまむ、紐を結ぶ、雑巾を絞るといった動作もできるようになり、大人の援助により、のこぎりなど様々な用具を扱えるようになります。

【目的のある集団行動】

５歳を過ぎると、物事を対比する能力が育ち、時間や空間などを認識するようになります。

また、少し先を見通しながら目的をもった活動を友達と行うようになり、仲間の存在がますます重要になります。そして、目的に向かって楽しく活動するためには、それぞれが自分の役割を果たし、決まりを守ることが大切であることを実感していきます。

こういった集団活動の中で、言葉による伝達や対話の必要性が増大し、仲間との話し合いを繰り返しながら自分の思いや考えを伝える力や相手の話を聞く力を身に付けていきます。

【思考力の芽生え】

子どもはそれまでの経験や日々の生活を通して、自分なりに考え、納得のいく理由で物事の判断ができる基礎を培っていきます。また、納得できないことに対して反発したり、言葉を使って調整したりするなどの力が芽生えます。自分の意図が伝わらず仲間から批判されたり、悔しい思いを経験したりすることもありますが、そうした経験が子どもの思考力の基礎を育てます。

【仲間の中の一人としての自覚】

集団での活動の高まりとともに、子どもは仲間の中で様々な葛藤を体験しながら成長します。そして一人一人の成長が集団の活動を活発なものに変化させ、そのことにより、一人一人の子どもの成長が促されます。

2　教育・保育の重点

□　安定感をもって環境に関わり、体と心を十分に働かせて遊びや生活を楽しむ中で、自ら健康で安全な生活を作り出す力を育てる。
□　自分なりの課題をもち生活を主体的に進めていこうとする意欲や態度を育てる。
□　友達と一緒に様々な遊びや生活を進めていく中で、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、必要感をもって決まりをつくったり守ったりする力や、自信をもったり他者を認めたりする気持ちや態度を育てる。
□　様々な遊びや生活の中で考えたり、試したりできるような場を作り、達成感や満足感を十分味わえるようにし、知的好奇心を高める。
□　園内外の様々な自然や動植物に触れる体験を通して、身近な事象への関心を高め、自然への愛情や畏敬の念、また命あるものを大切にする気持ちを育む。

3　親育ち・子育ち支援　保護者へ発信しましょう・・・子育て支援と家庭の教育力向上に向けて

☆　**家庭での手伝いを継続してさせることの大切さを伝えましょう。**
- ５歳児になると基本的生活習慣もほぼ身に付き、手伝いを自分からしようとするなど一段と頼もしくなります。
- 家庭ではあまり難しくなく、継続してできる手伝いをさせ、感謝の気持ちを表すことで、家族の一員としての自覚と誇りを子ども自身がもてるようにすることが重要です。家族の役に立つ経験は、ひとまわりもふたまわりも子どもたちをたくましく育てます。
- 親子で会話をしながら料理や家の掃除をすることは楽しいものです。話すことにより自分で体験したことが、より確かなものになってきます。また、聞いてもらえた満足感が、親子の絆を深め、生きる喜びに繋がっていき「よい聞き手」「よい話し手」を育てます。

☆　**子どもの話をしっかり聞くことの大切さを具体的に伝えましょう。**
- 子どもたちは語彙も豊富になり、相手に分かるように話すことが上手になります。
- 園でのできごとを大好きな家族に話して共感して欲しい感情も出てきます。しっかりと向き合って真剣に聞いてあげられるよう、家庭と園とが連携を密にすることが大切です。

☆　**歩くことの大切さを伝え、家庭で実行できるよう折に触れて伝えましょう。**
- 家庭では自転車に乗せたり、車を利用したりして歩くことが少なくなりがちです。体力がつき身体の諸機能も著しく発達してくるこの時期。できるだけ日常的に歩くことを心がけましょう。

☆　**地域の人たちとの交流の大切さを伝えましょう。**
- 家族以外の大人と接し、地域の人から昔遊びや木工細工などを教えてもらう中で、子どもたちは多様な人との関わりや豊かな体験をすることができます。積極的に園や地域の行事に参加するよう働きかけましょう。
- 地域のボランティアの人や民生児童委員、青少年委員、町会の人たちは地域の子どもたちの力強い応援隊です。ネットワークを広げていくことが大切です。

4　発達に必要な経験の内容

健　康

○　戸外の様々な環境に積極的に関わり、体を動かしたり、工夫したりして遊ぶ。
○　一日の園生活を予測したり、見通したりして自分なりに行動する。
○　自分の身の回りの始末や片付けの必要性が分かり、自分から進んで行う。
○　うがいや手洗いなど病気の予防に必要な活動を理解し、自分からやってみようとする。
○　体と食物の関係に関心をもつ。
○　危険な遊び方や場所に気付き、自分で判断して止めようとする。

保育者の関わりのポイント

★　手や足・体などを使った複雑な動きができるようになってくるため、ボールや縄などの遊具を使った遊びや体の様々な動きが体験できるような環境を工夫する。また、チームで競い合う遊びも子どもたちで進めていけるようにルールの共通化などを援助していく。
★　ダイナミックな遊びを体験する中で、状況に応じて機敏に体を動かしたり、危険を回避したりする力が身に付くようにする。遊具などについては、扱い方を正しく指導し安全に配慮する。
★　遊具や用具の出し入れを子どもたち自身で行いやすいよう、場の設定や表示などを工夫する。
★　子ども自身が健康に関心をもったり、進んで病気の予防に取り組んだりできるように、社会の情報を取り入れたり、視覚に訴えるなど提示の仕方を工夫したりする。

人間関係

○　共通のイメージをもって、グループの友達と遊びを進める楽しさを感じる。
○　チームの友達と力を合わせ、他のチームと勝敗を競う楽しさや悔しさを仲間と共感し合う。
○　友達の得意な面やよさに気付き、一緒に楽しく遊ぼうとする。
○　自分のしたことの善悪に気付き、どうしたらよいか考えようとする。
○　自分のことだけでなく、相手の立場に立って考えようとする。
○　異年齢の子どもとの関わりを深め、思いやりやいたわりの気持ちをもつ。
○　自分の生活に関係の深い地域の方や高齢者に親しみの気持ちをもつ。

保育者の関わりのポイント

●　共通の目的やイメージがもちやすい環境や教材に配慮したり、社会情報を伝えたりする。
●　様々なものに興味や関心が広がってきている子どもの姿を具体的に捉え、安全面への配慮を十分にしながら、子どもの気付きや発見を大切に受け止められるようにする。
●　友達関係の深まりとともに、友達同士の対立や葛藤なども多くなる。そのことに十分付き合い、一人一人のよさに気付かせながら、子どもたち自身の力で解決にたどり着けるようその過程を大切にしながら援助していく。
●　遊びの中での力関係に留意し、一人一人が思いを出せるよう対等な友達関係を育てる。
●　数人のグループやクラス全体で目的をもって取り組む活動を、園生活の中に無理なく取り入れるために、場やもの、時間の確保などについて他のクラスとの連絡を密にする。
●　一人一人の気持ちに寄り添いながらも、場合によっては仲間やクラス全体に広めたりして、子ども同士が思いやりをもったり共感したりできるようにする。

環　境

○　ものの性質や仕組みが分かり遊びに生かす。
○　季節の変化や自然現象に興味や関心をもち、考えたり試したりする。
○　飼育栽培物の世話に気付き、自分でできることをしようとする。
○　リサイクル活動に興味や関心をもち、自分でできることをしようとする。
○　様々な図形に関心をもったり、数、量の多少やものの高低、長短が分かったりし、生活や遊びの中に取り入れる。
○　自分の名前を書く、友達の名前を読む、遊びの中で文字を書く、時計を見て片付けの時間が分かるなど、日常生活や遊びの中で必要な文字や数、標識を進んで使う。
○　地域の施設や人、社会の情報、日本の国旗や世界の国旗に関心をもつ。

保育者の関わりのポイント

▲　ものの特性を生かした環境を整え、子どもが丁寧にものに関われるようにする。気付きや発見を受け止め、言葉に出し、物事の法則性に結び付くようにする。
▲　飼育栽培物の世話を進んでしている子どもの気持ちを受け止め、動植物の可愛い姿や成長を話題にしたりしながら、クラスの皆が愛着を感じられるようにしていく。
▲　遊びに必要な場作りを工夫できるように、園内外のものや空間に目を向け、取り入れられるよう援助する。
▲　日常生活の中で、数量や文字に対する関心を広げ、遊びを楽しむ中で、数量や文字に対する感覚が豊かになるようにする。
▲　子どもの生活に関係の深い情報を適切に選択し、折りに触れて提示していく。

言　葉

○　考えたこと疑問に思ったことなどを、相手に分かるように言葉で表現する。
○　グループの友達の中で、自分の考えをみんなに分かるように話す。
○　聞いて心地良い言葉や美しい言葉があることに気付き、自分も使おうとする。
○　様々な体験を通じてイメージを豊かにし、言葉で表現する。
○　絵本や物語、詩などに親しみ、想像する楽しさを味わったり自ら表現したりして言葉の面白さや美しさに興味をもつ。

保育者の関わりのポイント

◆　何でも安心して言い合えるクラスの雰囲気作りを心がけるとともに、子どもの発言を肯定的に受け止め言葉に出して温かく返す。
◆　遊びや生活の中で文字に対する関心がもてるような環境を用意するとともに、一人一人の興味や個人差に配慮しながら、子どもが覚えたい時に、その必要に応じて読んだり書いたりする体験が楽しめるようにする。
◆　グループで話し合う機会を計画的に設け、友達に自分の気持ちや考えを分かりやすく話すことの大切さに気付くようにする。
◆　言葉の美しさやリズム感などを味わえるようにし、豊かな言語体験ができるようにする。

表　現

○　試したり工夫したりして様々なものの感触、特徴を感じ取り楽しむ。
○　感じたことや思ったことなどを友達と伝え合う楽しさを味わう。
○　グループの友達と共通の目的をもって、描いたり作ったりする。
○　感じたことを色、形、声、体の動きなどに託し、様々な方法で伸び伸びと表現することを楽しむ。
○　音楽を聴いたり、歌を歌ったり、曲に合わせて楽器を使ったりする楽しさを味わう。
○　自分の想像したものを体の動きや言葉などで表現したり演じたりして楽しむ。

楽しい気持ちを友達と一緒に表現

保育者の関わりのポイント

■　子どもの力で使用できる楽器やCDデッキなどの機器が身近にあるようにする。
■　自分の思いを表現できるようにするためには、絵を描いたり製作したりする技術の習得も必要になってくる。遊びの中で繰り返し経験を重ねていくことで、無理なく身に付くようにする。
■　遊びの中で使うものを作ったり、イメージや本物に近付けたものを作ることができるように、素材や材料を取り出しやすい所に用意したり、園内外の遊具や用具を遊びのイメージに生かす方法などを助言したりする。
■　表現の楽しさを膨らませたり、引き出すきっかけとなったりするような音楽、歌、絵本、物語、などを準備し、遊びの中で必要に応じて使えるようにしておく。
■　ダイナミックな絵画・造形表現ができるように、絵の具、コンテ、パステル、泥粘土など様々な素材体験を積み上げ、自分のイメージに合った素材を組み合わせて使えるようにする。

５　実践事例（19）

５歳児　５月

こいのぼりをつくろう！

共通の目的を生み出しながら活動する

５～６人の友達と一緒に一つのこいのぼりを作ろうと保育者が課題を提示し、まず話し合うことを３点（しっぽの形・うろこの模様・体の色）示した。Ｚ児たちのグループがそれぞれしっぽの形を指で床に描いて友達に伝えているので、保育者が紙とペンを持ってきて描くように促すと、紙片に一人一人の考えが表現され、「だるまさんがころんだ」で決めることになった（言葉一文字に対して一つの形を指さして『だ』のところで決める）。ところが、Ａ児が決まった形がどうしても嫌だと言い張ったため、Ｂ児がもう一度「だるまさんがころんだ」をしようと提案する。他の幼児はそれを受け止めもう一度行うと、Ａ児の考えではない形に決まったがＡ児は快く受け入れた。

翌日、うろこの模様をクレヨンで描き、絵の具で上から塗るように保育者が促したが、夢中になって塗りすぎてしまい、模様が見えにくくなってしまった。保育者が「どうしようか」と声をかけると子どもたちから「何か飾りを付けたらいいんじゃない」と考えが出て、それぞれのグループ毎に決めたうろこの模様の形の紙を貼ることになった。

★健康　●人間関係　▲環境　◆言葉　■表現

★保育者や友達と関わりながら、安心して行動する。
★保育者が提示する課題に楽しんで取り組む。

●友達と一緒に動きながら目的を見出していく。
●友達の思いを受け止めて作っていく。

◆思いやイメージを言葉にする。
◆友達の考えを聞く。

▲いろいろな描画材を扱う。
▲状況に対応するために、これまでの経験を思い出し、材料を工夫して使う。

■感じたこと、考えたことを形や模様にして表現する。
■友達と一緒に描いたり作ったりする。

☞ 保育者の関わりのポイント

☆ **子どもが自分たちで課題を乗り越えていけるよう、保育者は子どもの言動を身守りながら、必要な援助をタイミングよく行うことが大切である。**

・年長組になって１か月、子どもたちだけで遊びを進めるよう意図してもなかなか難しい。
・友達の中で自分の考えやイメージを出しながら、共通の目的に向けて取り組む経験をたくさんさせたいと考え、生活グループ（５～６人）でのこいのぼり作りを取り入れた。
・「どんなこいのぼりを作ろうか？」一人一人が自分の考えやイメージを出しやすくなるように、まずは話し合いの観点をはっきりと提示した。「形、色、模様を決めるんだよ」との言葉かけは子どもにとってイメージしやすく分かりやすかったようだ。
・話し合いの中で、形を指で床に描いて友達に伝えようとしていた子どもの姿を保育者が見逃がすことなく、紙とペンをもってくるように促したことは、それぞれのイメージが具体的に視覚化、共有化されることになった。
・保育者は子どもの言動を見守りながら、必要な援助をタイミングよく行うことが大切である。また、途中で思わぬ展開になった時、保育者が子どもとともに考える機会をもったことは、子どもが自分たちで課題を乗り越えていこうとする体験につながった。この時期こうした経験を積んでいくことが主体的に遊びを進める素地を培うものとなる。

５　実践事例（20）

５歳児　７月

みんなでお料理、楽しいね

自分なりの目的に向かって試したり挑戦したりする

４歳児の３月に植えたジャガイモや、５歳児の５月の半ばからグループの友達と一緒に育てたナスやトマトなどの夏野菜が収穫期を迎えた。植物の成長の様子に関心をもち、進んで世話をした子どもたち。収穫の喜びとともに包丁やまな板、野菜の皮むき器などを使い調理にも挑戦し、みんなで調理してみんなで食べる喜びも味わう。

★健康　●人間関係　▲環境　◆言葉　■表現

★身近な食材や食べ物に関心をもつ。
★衛生を意識し、進んで手洗いや身支度をする。
★友達と一緒に作って食べることの楽しさを味わう。
★自分で作ることを通して、嫌いだったものも食べられるようになる。

▲野菜の成長に興味や関心をもち、世話をしたり、花・実の色や形、種に興味をもったりする。
▲調理器具の安全な使い方を知る。
▲火の有用性や扱い方を知る。
▲食材の数を数えたり、量ったりして数量に関心をもつ。

◆調理を通して感じたことを言葉や動きで表現する。
◆友達同士でやりかたを伝えようとしたり、相手の話を聞いたりする。
◆友達との会話を楽しむ。
◆「やさいのおなか」の絵本を見る。

●友達と協力して作ることの楽しさを知る。
●グループで話し合い、役割を決めて動こうとする。
●自分たちで作ることを経験して、作ってくれる人へ感謝の気持ちをもつ。

■トマトをイメージしながら「トマト」の歌を歌って楽しむ。
■育てた野菜の絵をかく。

☞ 保育者の関わりのポイント

☆　**子どもたちが保育者や友達と一緒に調理をしたり、食べたりする過程で楽しさを感じられるよう援助し、子どもたちの食への関心を高め、食育へとつなげていく。**

・種をまいたり、苗を植えたり、世話をしたり、栽培する過程で思うようにならないできごとに出合ったりするなど様々な体験を経て、ようやく収穫した野菜を使って行う調理は楽しく喜びがある。
・植物の成長や変化、特徴などに気付き知的好奇心が高まり、調理道具を使う面白さを感じられるようになってきたこの時期、自分たちで育てた野菜を使った調理体験をさせたいと考えた。
・安全に楽しく活動できるようにすることが大切なため、仕事の手順や方法、道具の使い方などを丁寧に教えたり再確認したりした。
・一人一人の動きを伝え、互いに気付き合えるよう援助したことで、一人ではできない難しいことや大変なことも、みんなと協力することによってやり遂げられることが実感できた。

５　実践事例（21）

５歳児　９月

これ　飛ぶからオス…

生き物（命）との出会いと学び合い

５月中旬にＣ児が家庭からカマキリの卵のうを園へ持ってきた。クラスで「１６２ひきのかまきりたち」の絵本を読み聞かせ、飼育を始めた。６月上旬、カマキリが誕生。餌は何だろうと図鑑で調べると、バッタを食べることを知るが、生きた餌しか食べないことが分かり、園庭の茂みに放すことにした。９月初旬、大きくなったカマキリを発見。やっと捕まえて、飼育ケースに入れて友達と見合う。保育者が「どこにいたの？Ｃちゃんのカマキリかもしれないね」と言うと、Ｄ児が「きっとＣちゃんのカマキリだ！でもＣちゃんお休み、明日教えてあげよう」と言い、Ｄ児は「飼いたい」と張り切る。「餌は？」と保育者が聞くとＢ児は「餌探そう、バッタ、バッタ」と大きな声で言う。するとＥ児が「これ飛ぶからオス。飛ばないのはメス」と言う。保育者が「カマキリって本当に顔が三角だね。眼は茶色なんだ～」とカマキリを見ながら言うと、Ｆ児が「ほんとだ、何で？さっきは緑だったのに。緑でまるかった」……会話が続く。

★健康　●人間関係　▲環境　◆言葉　■表現

★戸外に出て、自然物に関わる。
★生き物に必要な環境に気付き、整えようとする。
★自分たちで判断して行動しようとする。
★命がつながっていることを感じる。

▲成長の変化に気づき、友達同士伝え合ったり、分からないことを図鑑で調べたりする。
▲生き物の気持ちや特性が分かり、ふさわしい環境におく。

●友達と思いや考えを出し合う楽しさを感じる。
●友達を思いやったり、友達同士互いの考えを受け止め合ったりする。

◆自分の知識や認識をつなげて、言葉で伝え合う。
◆絵本や図鑑から知識を得たり好奇心を募らせたりする。
◆友達との会話を楽しむ。
◆感動を言葉にして友達と伝え合う。

☞ 保育者の関わりのポイント

☆ **保育者は子どもの関心や発見を丁寧に受け止め、環境を整えるとともに、言葉での伝え合いや気付きの共有に向けた援助を通じて、学びへの意欲や広がりにつなげていく。**

・家庭から持ち込まれたカマキリの卵が園で孵化し、みんなで庭に放し、やがて秋になり、大きなカマキリが現れたのを発見した子どもたち。
・６月に放ったカマキリの赤ちゃんが大きくなって戻ってきたに違いないと、子どもなりに考え、自然のめぐりを感じ取っている。
・飼育環境を整えるとともに、小さな命があることを感じさせる言葉をつぶやいたり、子どもの知的好奇心を満たすことができる絵本や図鑑を用意したり、関心や発見を丁寧に受け止めたりしたことがこのような豊かな体験となっている。
・友達同士言葉で感動を伝え合う姿を見守り、その思いに共感を示したり、保育者自身の発見や知りたいことなどを伝えたりして、学び合う楽しさを感じられるようにしたことも子どもたちの好奇心を高め、知りたい、調べたいという学びへの意欲を高めている。
・生き物の生態に対する子どもたちの気付きや発見をクラス全体の場で話題にし、共有できるようにしたことも学びの広がりへとつながった。

６　必要な経験に向けての工夫及び教材・玩具など

遊びの流れやイメージを作ったり動きを広げたりできるように

○　表現活動を楽しめるもの：「１４匹のピクニック」「たんたのたんけん」「ロボットカミイ」「くらやみえんのたんけん」「もりのへなそうる」「スイミー」「くんちゃんの森のキャンプへ」など
○　イメージが広がる歌：「宇宙船のうた」「雨ふりくまのこ」「とんでったバナナ」「ドレミのうた」「南の島のハメハメハ」「おばけなんてないさ」など
○　扱いながらイメージを広げたり、試したり考えたりしながら繰り返し遊べる素材：木片、板、スチロール、砂、水、泥、花、葉、石、ゴムなど

グループの課題に向けて取り組めるように

○　５～６人のグループで取り組む経験や活動：ごっこ遊び、自分たちの食事の場を作る経験、こいのぼり作り、簡単な曲での合奏、グループの友達と一緒に行う当番活動（お休み調べ、飼育物の世話など）、自分たちの遊びを誕生会で見せる経験など
○　グループによる合奏曲：「キラキラ星」「かえるのうた」など
○　友達と一緒に遊びの場や遊びに使うものを作る：大型箱積み木、巧技台、キングブロック、段ボール、粘着テープなど

クラス全体の中で、一人一人が自分の力を出したり、それが仲間に認められたりするように

○　皆の前で、歌う、描いたものを見せる、泳ぐなど力を出す経験をしたり、ルールのある遊びを楽しんだりする：ドッジボール、ドンじゃんけん鬼、助け鬼など
○　共通の目的をもって作るもの：こいのぼり作り、七夕飾り作りなど
○　クラスのみんなで語調を楽しんだり、替え歌を作ったりできる歌：「あらどこだ」「とんとんともだち」「そうだったらいいのにな」など
○　クラスのみんなでかけ合いを楽しむ歌：「森のくまさん」「大きな歌」など

自然への興味や関心を高められるように

○　継続して世話をし、成長を楽しみにできる植物や、収穫の喜びを味わい調理できる野菜などの栽培：アサガオ、ヒマワリ、アカカブ、小松菜などの種、トマト、ナス、ピーマンなどの夏野菜の苗など
○　生き物への興味、関心が高まったり成長を楽しみにしたりできる生き物：カブトムシ・チョウ・カマキリなどの幼虫やサナギ、オタマジャクシ、メダカ、ザリガニなど
○　生態に対する子どもたちの気付きを話題にできる小さな生き物：ダンゴムシ、セミ、トンボ、カブトムシなど
○　感じたことを伝えたり受け止め合ったりできる季節の変化：さわやかな風、空・雲の様子、陽射し、梅雨、暑さ、水の心地よさ、衣替えなど
○　身近な事象の変化から好奇心や探究心を育む遊び：しゃぼん玉、色水遊び、船作りなど
○　季節を感じる歌：「ぽかぽかてくてく」「みどりのマーチ」「はたけのポルカ」「シャボン玉」「かえるのうた」「うみのそこにはあおいうち」など
○　気の合った友達と話題を同じにできるような簡単な言葉や絵、写真、遊びが入っている月刊誌的なもの（料理、社会の出来事、日常の暮らしなどが描かれて話題にできるもの）
○　飼育の仕方や生態が分かりやすく書かれた図鑑：「しぜん」シリーズや「生き物の飼い方」の本など